

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)										
	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度		記事	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容					
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>														
477	131.95	132.89	D 風化で締った砂状化が拡大し、φ5~20m/岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や厚1~2m/mの細脈として分布。	D 風化で硬質な砂状化が拡大し、φ5~20mm岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体で、粘土化部や幅1~2mmの細脈として分布。	131.95	132.89	131.95	132.89	131.95	132.89	131.95~132.89m: D 風化で硬質な砂状化が拡大し、径5~20mmの岩片を含む砂礫状を呈する。砂状部中には灰白色主体の粘土化部が幅1~2mmの細脈として分布。						
478	132.41	132.60	硬さ「C」の岩片状コア。	-	-	-	-	132.41	132.60	132.41~132.60m: 硬さ「C」の岩片状コア。							
479	131.95	132.18	硬さ「C」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	-	-	131.95	132.41	131.95~132.18mと132.32~132.41mは硬さ「C」の岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	記事内容が同じであるため、132.32~132.41mの深度も含めて記載した						
480	131.95	132.89	(変質欄)3ランク	(変質欄)2ランク	131.95	132.89	131.95	132.89	131.95	132.89	(変質欄)2ランク						
481	132.32	132.41	硬さ「C」岩片のみ採取され、風化砂状部は掘削時に流失したものと推定される。	-	-	-	-	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない					
482	132.89	133.24	CL 一部の割れ目自体は厚さ1~2m/m程度に砂状化した砂を挟む。	CL 一部の割れ目自体は厚さ1~2mm程度に砂状化した砂を挟む。	132.89	133.24	132.89	133.24	132.89	133.24	132.89~133.24m: CL 一部の割れ目自体は厚さ1~2mm程度に砂状化した砂を挟む。						
483	133.15	133.24	一部で砂状化が拡大している。	-	-	-	-	133.15	133.24	133.15~133.24m: 一部で砂状化が拡大している。							
484	133.24	133.49	D 砂状化が拡大し、締った砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。	133.24	133.49	133.24	133.49	133.24	133.49	133.24~133.49m: D 砂状化が拡大し、硬質な砂状~砂礫状を呈する。変質は弱い。						
485	133.24	133.49	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	133.24	133.49	133.24	133.49	133.24	133.49	(岩級区分欄)CLに含める						
486	133.49	133.76	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	CL 20~30°と60~70°割れ目が交差し、割れ目が多くなっている。	133.49	133.76	133.49	133.76	133.49	133.76	133.49~133.76m: CL 20~30°と60~70°の割れ目が交差し、割れ目が多くなる。						
487	133.75	133.92	破砕帯(主せん断面133.75m)	破砕帯(最新活動面133.75m)	133.75	133.92	133.75	133.92	133.75	133.92	●133.75~133.92m: 破砕部 133.75m: 粘土状部(Hc-1) 133.75~133.92m: 上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm。 133.75~133.80m: 粘土質礫状部(Hb) 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」の岩片を20~30%含むや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。 133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端45°で直線的に、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化した径5~10mmの岩片で、岩片間は幅1~2mmの灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ100mm。	硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性、直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。					
488	133.75	133.75	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1m/m	Hc-1 45°で上下端とも直線的に連続。石英粒や岩片を含まない軟質粘土(ガウジ)。色調は明緑灰色(10G 7/1)。厚さ0.5~1mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	133.75	133.75	133.75	133.75	133.75	133.75	133.75	133.75					
489	133.75	133.80	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含むや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。	Hb 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含むや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。 含まれる細粒部は割目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	133.75	133.80	133.75	133.80	133.75	133.80	133.75	133.80	133.75	133.92			
490	133.80	133.92	Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10m/岩片で、岩片間は幅1~2m/m灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ100m/m	Hj 上端35°、下端50°でともに波打って連続。大半が粘土化したφ5~10mm岩片で、岩片間は幅1~2mm灰白~緑灰色軟質粘土が脈状に分布。全体に「粘土混じり岩片状」を呈する。色調は上端側が緑灰色(10G 6/1)、下端側がオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ100mm。 含まれる細粒部は割目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	133.80	133.92	133.80	133.92	133.80	133.92	133.80~133.92m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端45°で直線的に、下端35°で波打って連続。粘土化した硬さ「E」や硬さ「D」岩片を20~30%含むや軟質な「粘土質礫状」を呈する。硬さ「D」岩片中には直線的なせん断面と同方向の割れ目が分布する。色調は緑灰色(10G 6/1)。厚さ30~40mm。 含まれる細粒部は割目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
491	133.75	133.92	(岩級区分欄)D	(岩級区分欄)CL	133.75	133.92	133.75	133.92	133.75	133.92	(岩級区分欄)CLに含める						
492	133.92	134.15	硬さ「D」主体	硬さ「D」主体	133.92	134.15	133.92	134.15	133.92	134.15	133.92~134.15m: 硬さ「D」主体						

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
493	134.15	134.23	破砕帯(中せん断面134.15m)	134.15	134.23	破砕帯(最新活動面134.15mか134.19mの可能性あり)			●134.15~134.23m: 破砕帯 134.15~134.19m: 粘土状部(Hc-1) 傾斜45°で下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟質粘土(カウソ)。下端側にφ0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は明オリーブ灰色。下端側は暗オリーブ灰色で、3色の縞状を呈する。幅20mm。 134.19~134.23m: 粘土混じり岩片状部(Hi) 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。φ5~20mmの岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するための「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。 含まれる岩片は硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は機械割れのため不明。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の存在。境界面や細粒部の連続性・直線性。最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
494	134.15	134.19	Hc-1 75°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟質粘土(カウソ)。下端側にφ0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリーブ灰(2.5GY 5/1)、中央・明オリーブ灰(2.5GY 7/1)、下端・暗オリーブ灰(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20m/m	134.15	134.19	Hc-1 65°で上下端とも直線的に連続。石英粒。岩片は殆んど含まない軟質粘土(カウソ)。下端側にφ0.5mm以下の黄鉄鉱が点在する。 色調は上端側・オリーブ灰色(2.5GY 5/1)、中央・明オリーブ灰色(2.5GY 7/1)、下端・暗オリーブ灰色(2.5GY 4/1)で3色の縞状模様を呈する。厚さ20mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	134.15	134.23		
495	134.19	134.23	Hi 上端75°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5~20m/m岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するための「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリーブ灰(2.5GY 5/1)。厚さ30m/m以上。	134.19	134.23	Hi 上端65°で直線的に、下端はコアが砕けているため不明(50°の可能性あり)。 φ5~20m/m岩片状に砕け、その割れ目には灰緑色粘土が付着するための「粘土混じり岩片状」を呈すると推定される。 色調はオリーブ灰色(2.5GY 5/1)。厚さ30mm以上。 含まれる岩片は硬質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は機械割れのため不明。				
496	134.15	134.23	(岩級区分欄)D	134.15	134.23	(岩級区分欄)CL	134.15	134.23	(岩級区分欄)CLに含める	-
497	134.23	134.65	(実質欄)3ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク	134.23	134.65	(実質欄)2ランク	-
498	134.23	134.77	CL 細粒玄武岩(レライト)下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	CL アプライト下盤側貫入境界直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	134.23	134.77	134.23~134.77m: CL アプライト下盤境界の直下部である。割れ目はやや多いが劣化は伴わない。	-
499	134.23	134.33	DoとGpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	ApとGpが混在した岩相を呈する。色も緑灰色。	134.23	134.33	134.23~134.33m: アプライトと花崗斑岩が混在した岩相を呈する。緑灰色を呈する。	-
500	134.77	135.34	D 土砂状~φ10m/m細岩片状部が主体	134.77	135.34	D 土砂状~φ10mm細岩片状部が主体	134.77	135.34	134.77~135.34m: D 土砂状~径10mmの細岩片状部が主体。	-
501	135.34	145.65	CL 硬さ[C]を主体とした割れ目発達部。 硬さ[B]は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い着割れ目を含んでいる。 硬さ[E]は割れ目沿いに風化が広がりがφ5~10m/mの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	CL 硬さ[C]を主体とした割れ目発達部。 硬さ[B]は上端の135.34~136.50mに小分布。 一部で密着度の低い着割れ目を含んでいる。 硬さ[E]は割れ目沿いに風化が広がりがφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04mにコア長15cm前後で分布する。	135.34	145.65	135.34~145.65m: CL 硬さ[C]を主体とした割れ目発達部。硬さ[B]は135.34~136.50mに小さく分布。一部で密着度の低い着割れ目を含む。 136.50~136.64m、137.44~137.60m、139.87~140.04m間は、コア長15cm前後で、割れ目沿いに風化が広がりがφ5~10mmの岩片を含む砂礫状を呈し、硬さ[E]となる。	-
502	136.40	-	136.40m以深でφ2~3m/mの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深でφ2~3mmの暗緑灰色。緑泥石斑点が点在する。	136.40	-	136.40m以深は径2~3mmの暗緑灰色の緑泥石斑点が点在する。	-
503	136.54	136.54	35° 幅10~15mでアプライトがφ5m/m前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.54	35° 幅10~15mでアプライトがφ5m/m前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	136.54	136.54	136.54m: 35°で幅10~15mのアプライトが径5mm前後で砕けて分布。両境界部も含め粘土は伴わない。	-
504	137.44	137.53	φ5~10m/m破砕状の細礫主体。	137.44	137.53	φ5~10mm破砕状の細礫主体。連続する細粒部は伴わない。	137.44	137.53	137.44~137.53m: 径5~10mmの細礫主体。連続する細粒部は伴わない。	-
505	137.53	137.60	締った砂状部も含む。	137.53	137.60	硬質な砂状部も含む。	137.53	137.60	137.53~137.60m: 硬質な砂状部を含む。	-
506	137.68	137.68	色調が変化。	-	-	-	-	-	-	・色調欄から読み取れるため記載しない
507	-	137.68	137.68m以深は橙色を帯びる。これはカリ長石が多いため。	-	-	-	-	137.68	137.68m以深はカリ長石が多く、橙色を帯びる。	-
508	137.68	-	137.68m以深は淡緑灰色を帯び、これは緑泥石を多く含むためと推定される。	-	-	-	-	137.68	137.68m以深は緑泥石を多く含む淡緑灰色を帯びる。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容
509	-	-	-	137.82	137.97	弱い変質を受け、砂～細礫状を呈する。 やや軟質。	137.82	137.97	137.82～137.97m:弱い変質を受け、やや軟質な砂～細礫状を呈する。
510	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、厚1～2m/mの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	138.00	138.30	割れ目の一部は砂状化し、幅1～2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。	138.00	138.30	138.00～138.30m:割れ目の一部は砂状化し、幅1～2mmの灰白色粘土を脈状に伴うことがある。
511	-	-	-	138.40	139.20	アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。	138.40	139.20	138.40～139.20m:アブライト 上下端とも割れ目で花崗斑岩と境される。
512	138.40	139.20	(地質名欄)Gp	138.40	139.20	(地質名欄)Ap	138.40	139.20	(地質名欄)アブライト
513	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1m/方解石脈はさむ。この脈は138.67m・38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	80° 割れ目に厚さ1mm方解石脈挟む。この脈は138.67m・38° 割れ目で切られている。	138.75	138.75	138.75m:80° の割れ目に幅1mmの方解石脈を挟む。
514	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5m/m程度砂状化。	139.67	139.67	75° 割れ目の一部が厚さ5mm程度砂状化。	139.67	139.67	139.67m:75° の割れ目の一部が幅5mm程度砂状化する。
515	139.87	140.04	30° と80° 割れ目が細かく交差し、φ5～10m/m細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.87	140.04	30° と80° 割れ目が細かく交差し、φ5～10mm細礫状～粗粒砂状に砕けている。粘土は殆んど伴わない。	139.87	140.04	139.87～140.04m:30° と80° の割れ目が細かく交差し、径5～10mmの細礫状～粗粒砂状に砕ける。粘土は殆んど伴わない。
516	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1～5m/m程度にφ1～3m/mに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い「ゆる割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	厚さ10cmを超える砂礫状風化部は分布しないが、割れ目沿いに厚さ1～5m/m程度にφ1～3mmに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い「ゆる割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずか。	140.04	145.65	140.04～145.65m:幅10cmを超える砂礫状の風化部は分布しないが、割れ目沿いに幅1～5m/m程度に径1～3mmに砂状～片状化する割れ目を多く含む。割れ目は密着度の低い「ゆる割れ目」が開口化したものが多い。粘土を伴う割れ目はわずかである。
517	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5～10m/m硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	40° 割れ目ぞい砂状化。φ5～10mm硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。	141.10	141.18	141.10～141.18m:40° の割れ目ぞいに砂状化する。径5～10mmの硬質岩片(硬さ「C」)も多く残留している。
518	-	-	-	141.35	141.96	アブライト 上下端とも機械割れのため不明	141.35	141.96	141.35～141.96m:アブライト 上下端とも機械割れのため不明。
519	141.35	141.96	(地質名欄)Gp	141.35	141.96	(地質名欄)Ap	141.35	141.96	(地質名欄)アブライト
520	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60° 系と30° 系の割れ目が細かく交差し、φ5～10m/m主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1～2m/m程度に砂状化。粘土は伴わない。	141.96	142.23	互いにほぼ直交する60° 系と30° 系の割れ目が細かく交差し、φ5～10mm主体に細片化している。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部厚さ1～2m/m程度に砂状化。粘土は伴わない。	141.96	142.23	141.96～142.23m:互いにほぼ直交する60° と30° の割れ目が細かく交差し、径5～10mm主体に細片化する。岩片自身は硬さ「C」と硬質で一部幅1～2m/m程度で砂状化する。粘土は伴わない。
521	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。	142.91	144.90	142.91～144.90m:割れ目間隔は上下位に比べやや広くなるが、密着度の低い割れ目やゆる割れ目を多く含む。
522	143.57	143.70	上端60°、下端70° 割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5m/m以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5～10m/m石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	上端60°、下端70° 割れ目ぞいに緑泥石化強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、φ0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60°、厚さ5～10mm石英を脈状に伴う。	143.57	143.70	143.57～143.70m:上端60°、下端70° の割れ目ぞいに緑泥石化が強く、緑灰色を呈する。粘土化は殆んど伴わないが、径0.5mm以下の微細な黄鉄鉱と60° で幅5～10mmの石英を脈状に伴う。
523	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに、風化が拡大し、締った砂状を呈し、φ5～20m/mで残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色～暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、φ6～20mmで残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で少量ながら灰白色～暗緑灰色粘土が脈状に分布。	145.65	148.26	145.65～148.26m:D 大半が割れ目ぞいに風化が拡大し、硬質な砂状を呈し、径5～20mmで残留する岩片も含め、砂礫状～礫質砂状を呈する。一部で灰白～暗緑灰色粘土が脈状に分布する。
524	145.65	146.00	(風化欄)δランク (変質欄)3ランク (岩級区分欄)D	145.65	146.00	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)CL	145.65	146.00	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク (岩級区分欄)CL
525	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Eランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク	145.74	146.00	(コアの硬さ欄)Dランク
526	145.74	148.01	145.74～146.00m、146.91～147.50mは硬さ「D」主体の、147.81～148.01mは硬さ「C」の各々、中立的に分布	-	-	-	145.74	148.01	145.74～146.00m、146.91～147.50mは硬さ「D」主体の、147.81～148.01mは硬さ「C」のコアが中立的に分布する。
527	146.65	146.91	深度と共に残留する岩片量が増加する	-	-	-	146.65	146.91	146.65～146.91m:深度と共に残留する岩片量が増加する。

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
528	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91	147.50	硬さ「D」岩片主体であるが割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	146.91	147.50	146.91～147.50m:硬さ「D」の岩片主体であるが、割れ目ぞいに砂状化が進む部分も含む。	-
529	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Eランク	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク	146.91	147.65	(コアの硬さ欄)Dランク	-
530	146.91	148.26	(岩級区分欄)D	146.91	148.26	(岩級区分欄)CL	146.91	148.26	(岩級区分欄)CL	-
531	147.00	147.65	(風化欄)φランク (変質欄)3ランク	147.00	147.65	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク	147.00	147.65	(風化欄)γランク (変質欄)2ランク	-
532	-	-	-	147.50	147.82	上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	147.50	147.82	147.50～147.82m:上下端55°の割れ目の間は、一部砂状化を呈する。	-
533	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1～2m/暗緑灰色緑泥石脈はさむ。砂状～シルト状化している。	147.65	147.65	55°割れ目に厚さ1～2mm暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状～シルト状化している。	147.65	147.65	147.65m:55°の割れ目に幅1～2mmの暗緑灰色緑泥石脈を挟む。砂状～シルト状化している。	-
534	147.81	148.01	硬さ「C」と硬質で残留。割れ目は多いが挟在物は分布しない。	-	-	-	147.81	148.01	147.81～148.01m:硬さ「C」のコアが残留。割れ目は多いが、挟在物は分布しない。	-
535	148.26	149.19	OL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	CL 上端55°、下端50°の両者ほぼ同方向に割れ目で囲まれる。	148.26	149.19	148.26～149.19m:CL 上端55°、下端50°のほぼ同方向の割れ目で囲まれる。	-
536	148.68	148.68	50°、厚1～3m/暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1m/m)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	50°、幅1～3mm暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈を挟む。 同脈は微細(φ0.1mm)のセリサイトを少量伴う。	148.68	148.68	148.68m:50°で幅1～3mmの暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈を挟む。同脈は径0.1mmの微細なセリサイトを少量伴う。	-
537	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに厚1～2m/砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1～2mmで砂状化する部分がある。	148.84	-	148.84m以深、割れ目ぞいに幅1～2mmで砂状化する部分がある。	-
538	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し締った砂状を呈する。岩片はφ10m/m前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.68mは40°、厚さ1m/暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈はさむ。	149.19	149.67	D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片はφ10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。 粘土はわずかであるが、灰白色粘土が点在する。下端の149.67mは40°、厚さ1mm暗緑灰色の砂状～シルト状で緑泥石脈を挟む。	149.19	149.67	149.19～149.67m:D 割れ目ぞいに風化が拡大し硬質な砂状を呈する。岩片は径10mm前後の硬さ「C」で残留し、砂礫状を呈する。灰白色粘土がわずかに点在する。下端の149.67mは40°で幅1mmの暗緑灰色砂状～シルト状の緑泥石脈を挟む。	-
539	149.19	149.67	(岩級区分欄)D	149.19	149.67	(岩級区分欄)CL	149.19	149.67	(岩級区分欄)CLに含める	-
540	-	-	-	149.41	149.41	34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	149.41	149.41	149.41m:34°の割れ目に幅1mmの緑灰色粘土を挟む。	-
541	149.67	152.10	CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	-	-	-	149.67	152.10	149.67～152.10m:CL 硬さ「C」と「D」の岩片からなる。	-
542	149.67	150.22	硬さCで割れ目の一部に砂などをささむ	149.67	150.22	硬さCで割れ目の一部に砂などを挟む。	149.67	150.22	149.67～150.22m:硬さCで割れ目の一部に砂などを挟む。	-
543	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。下端の150.52mは48°、幅1～2m/砂～シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。下端の150.52mは48°、幅1～2mmで砂～シルト状の緑泥石脈、微細な黄鉄鉱を伴う。	150.22	150.52	150.22～150.52m:上下よりも変質し硬さ「D」に軟化している。下端の150.52mは48°で幅1～2mmの砂～シルト状の緑泥石脈や微細な黄鉄鉱を伴う。	-
544	150.22	150.52	(変質欄)3ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	150.22	150.52	(変質欄)2ランク	-
545	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	硬さCで、一部で割れ目ぞいに風化するが概ね風化は弱く、割れ目挟在物も殆んど分布しない。	150.52	152.10	150.52～152.10m:硬さCで、一部で割れ目ぞいに弱く風化するが、割れ目に挟在物は殆んど分布しない。	-
546	150.52	-	150.52m以深は岩芯にφ1～3m/暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は岩芯にφ1～3mm暗緑灰色斑点が点在したり割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが粘土化などの劣化はない。	150.52	-	150.52m以深は径1～3mmの暗緑灰色斑点が点在したり、割れ目の面が緑灰色化するなど緑泥石化が認められるが、粘土化などの劣化はない。	-
547	151.40	151.60	割れ目が密集し、φ10m/m程度の岩片状コア化している。割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.60	割れ目が密集し、φ10mm程度の岩片状コア化している。割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	151.40	151.60	151.40～151.60m:割れ目が密集し、径10mm程度の岩片状を呈する。割れ目の面の大半は挟在物が付着していない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名:H27-B-2

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)		
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容			
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
548	152.10	152.15	破砕帯(主せん断面152.11m)	152.10	152.15	破砕部(最新活動面152.11m)			●152.10~152.15m:破砕部 152.10~152.11m:粘土混じり礫状部(Hj) 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、径5~10mmに硬さ「D」で岩片化している。にぶい橙色を呈する。幅15mm。 152.11m:礫混じり粘土状部(Hc-2) 傾斜68°で上下端とも直線的に連続。径1~2mmの石英粒。岩片を約20%程含む。軟質。暗緑灰色を呈する。幅1mm。 152.11~152.15m:砂・粘土混じり岩片状部(Hj) 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。径3~5mmの岩片主体(一部径10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm。			・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
549	152.10	152.11	Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。主せん断面と直交する割れ目が多く、φ5~10m/mに硬さ「D」で岩片化。 色調はにぶい橙(5YR 6/3)、厚さ15m/m	152.10	152.11	Hj 上端45°、下端68°でいずれも直線的に連続。下位のHc-2の粘土と直交する割れ目が多く、φ5~10mmに硬さ「D」で岩片化した「粘土混じり礫状」を呈する。 色調はにぶい橙色(5YR 6/3)、厚さ15mm やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
550	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2m/mの石英粒。岩片を約20%程含む軟質粘土(ガウジ)。厚さ1m/m。暗緑灰色。	152.11	152.11	Hc-2 68°で上下端とも直線的に連続。φ1~2mmの石英粒。岩片を約20%程含む軟質な礫混じり粘土(ガウジ)。厚さ1mm。暗緑灰色。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	152.10	152.15				
551	152.11	152.15	Hj 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5m/m岩片主体(一部φ10m/m)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ20~50m/m	152.11	152.15	Hj 上端68°で直線的に、下端55°で波打って連続。φ3~5m/m岩片主体(一部φ10mm)。岩片間は砂状化~粘土化した「砂・粘土混じり岩片状」を呈する。色調は緑灰(10GY 5/1)~明褐色(7.5YR 7/2)。厚さ20~50mm。 やや軟質。含まれる細粒部は局所的に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。						
552	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51m以深では互いに交差する割れ目でφ10~20m/m程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を1m/m程度は含むことがある。	152.15	153.59	CL 風化で全体が硬さ「C」。割れ目が多く、152.51m以深では30°~50°程度の互いに交差する割れ目でφ10~20mm程度の岩片が主体。 割れ目の一部に砂を幅1mm程度挟むことがある。	152.15	153.59	152.15~153.59m:CL 風化で全体が硬さ「C」で、割れ目が多く、152.51m以深では30~50°程度の互いに交差する割れ目で径10~20mm程度の岩片が主体。割れ目の一部に砂を幅1mm程度挟む。			
553	152.10	152.15	(岩級区分欄)D	152.10	152.15	(岩級区分欄)CL	152.10	152.15	(岩級区分欄)CLに含める			
554	153.30	153.47	緑泥石が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	緑泥石化が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。	153.32	153.43	153.32~153.43m:緑泥石化が進み、一部の割れ目~岩芯は暗緑灰色化する。			
555	153.59	154.53	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。	153.59	154.53	153.59~154.53m:D 風化で割れ目沿いに砂状化が拡大。岩片沿いの割れ目は残留する。			
556	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」岩片と硬質な砂状部からなり「砂礫状」を呈する。	154.00	-	154.00m以深では硬さ「C」「D」の岩片と硬質な砂状部からなり砂礫状を呈する。			
557	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。	-	-	-	-	154.00	154.00m以浅は岩片量が多い。			
558	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1m/mセリサイトを伴う。	153.60	153.76	緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mmセリサイトを伴う。	153.60	153.76	153.60~153.76m:緑泥石化が著しい。粘土化は伴わないが、赤褐色の褐鉄鉱やφ0.1mmのセリサイトを伴う。			

## コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H27-B-2)

孔名: H27-B-2			コア観察カード				適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	選定した記事内容			
													コア観察カードから正しく転記されているか?	追加変更した情報が正しく転記されているか?	
		<input checked="" type="checkbox"/>			<input checked="" type="checkbox"/>										
559	154.53	154.71	破砕帯(主せん断面154.58m)	154.53	154.71	破砕部(最新活動面154.58m)									
560	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3m/m石英粒。φ3~10m/m粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含む軟質な「硬質粘土状」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰色(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の縞状。厚さ40~50mm/m	154.53	154.58	Hb 上端63°、下端36°でいずれも波打って連続。φ2~3m/m石英粒。φ3~10m/m粘土化~硬さ[D]岩片20~30%含むやや軟質な「粘土質状」を呈する。中央の緑灰色粘土は軟弱。色調は上端・明緑灰色(5G 7/1)、中央・緑灰色(5G5/1)、下端・灰褐色(5YR 6/2)の縞状。厚さ40~50mm。 <b>含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。</b>									
561	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(分つ)。色調は上下端側が褐色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の縞状を呈する。厚さ5mm/m。	154.58	154.58	Hc-1 36°で上端は波打って、下端は直線的に連続。φ1~2mm/m石英粒をわずかに(5%以内)に含む軟質粘土(分つ)。色調は上下端側が褐色(7.5YR 6/1)、中央が灰赤(2.5YR 6/2)の縞状を呈する。厚さ5mm。 <b>原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。</b>	154.53	154.71							
562	154.58	154.71	Hj 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3~5mm/mに細かく片状化。岩片間には幅1~3mm/mの明緑灰~緑灰色の軟質粘土脈が、またわずかに幅1mm/mの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として粘土混じり岩片状を呈する。色調はふい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ5mm/m	154.58	154.71	Hj 上端は36°で直線的、下端は65~70°で湾曲しながら連続。50~70°とこれに斜交する割れ目が多く、φ3~5mm/mに細かく片状化。岩片間には幅1~3mm/mの明緑灰~緑灰色の軟質粘土脈が、またわずかに幅1mm/mの軟質灰白色粘土脈が分布。全体として「粘土混じり岩片状」を呈する。色調はふい橙(7.5YR 7/4)~明緑灰(10G 7/1)、厚さ5mm。 <b>やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。</b>									
563	154.71	155.00	D 軟化著しいが、割れ目は残留する	154.71	155.00	D 軟質化著しいが、割れ目は残留する	154.71	155.00	154.71~155.00m: D 軟質化が著しいが、割れ目は残留する。						
564	155.00	162.00	OL 割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mm/mで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	160.00	OL 割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mm/mで砂~シルト状化する部分も認められる。	155.00	160.00	155.00~160.00m: OL 割れ目ぞいに暗緑灰色の緑泥石化が進む。特に、157.89~160.00mでは緑泥石化が著しく色調が緑灰色を呈し、厚さ2~20mm/mで砂~シルト状化する部分も認められる。						
565	155.00	158.00	(変質欄)3ランク	155.00	158.00	(変質欄)2ランク	155.00	158.00	(変質欄)2ランク						
566	-	-	-	155.89	155.89	88°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟み込む	155.89	155.89	155.89m: 88°の割れ目に幅2~8mmの緑泥石脈を挟み込む。						
567	156.25	156.25	75~80° 厚さ7~8mm/mでφ2~3mm/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	156.25	156.25	75~80° 厚さ7~8mm/mでφ2~3mm/mに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。	156.25	156.25	156.25m: 75~80°で幅7~8mmが径2~3mmに細片化し、岩片間に緑泥石化~シルト状部を伴う。						
568	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10mm/mの固結砂状部がφ1~2mm/mの扁平砂状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。	156.72	156.72	75~80° 厚さ1~10mmの硬質な砂状部がφ1~2mm/mの扁平砂状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。 156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目に充填している。	156.72	156.72	156.72m: 75~80°で幅1~10mmの硬質な砂状部が径1~2mmの花崗斑岩の扁平砂状部を挟んで上下位方向に連続する。下端は158.24mで、下端面には鏡肌と緑泥石粘土フィルムが付着する。156.67mには高角度割れ目とほぼ直交する割れ目が見られる。同様な暗灰色の細粒部は様々な方向の割れ目を充填している。						
569	158.00	158.20	φ5~10mm/破砕硬状部と固結砂状部からなり砂礫状を呈する。	158.00	158.20	φ5~10mm/破砕硬状部と硬質な砂状部からなり砂礫状を呈する。	158.00	158.20	158.00~158.20m: 径5~10mmの硬状部と硬質な砂状部からなり、砂礫状を呈する。						
570	159.06	159.33	割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	159.06	159.33	割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が厚さ2~20mm/mで分布。岩片自身も岩芯まで暗緑灰色化し、それが160.00mまで続く。	159.06	159.33	159.06~159.33m: 割れ目ぞいに暗緑灰色砂状~シルト状の緑泥石が幅2~20mmで分布する。160.00mにかけて岩芯まで暗緑灰色化する。						
571	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10mm/m方解石が膨縮しながら連続する。	159.78	159.78	70~80° 厚さ1~10mm方解石が膨縮しながら連続する。	159.78	159.78	159.78m: 70~80°で幅1~10mmの方解石脈が膨縮しながら連続する。						

H24-B14-2

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
1	0	6.66	0.00	6.66	0.00~6.66m 盛土(66層)	0.00	6.66	0.00~6.66m 盛土	
2	0	3.47	0.00	3.47	0.00~3.47m 細-シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を混入する。礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の差が認められる。	0.00~3.47m 細-シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を混入する。礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の差が認められる。	0.00~3.47m 細-シルト混じり砂 φ5~30mmの角~歪角礫を5~10%程度含む。砂は粗~細粒砂で少量のシルトを含み不均質である。礫種は花崗斑岩、安山岩(玄武岩)、石英で硬質。稀に風化礫を混入する。礫の混入状況は不均質で、少ない部分と多い部分の差が認められる。		
3	3.47	3.93	3.47	3.93	コンクリート 柱状コアにて採取。硬質である。	3.47	3.93	3.47~3.93m コンクリート 柱状コアで硬質である。	
4	3.93	4.28	3.93	4.28	グリ石 泥岩、φ20~40mmの角礫主体。	3.93	4.28	3.93~4.28m グリ石 泥岩、φ20~40mmの角礫主体。	
5	4.28	6.66	4.28	6.66	シルト混じり硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質なシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角礫を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を混入。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。	シルト混じり硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質なシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角礫を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を混入。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。	4.28~6.66m シルト混じり硬質砂 細~粗粒砂からなる不均質なシルトと礫が混入。礫はφ2~30mmの歪角礫を主とし、礫含有率10~20%程度。風化礫やクワリ礫を混入。礫種は花崗斑岩が主で、稀に安山岩礫を混入する。		
6	5.13	5.19	5.23	5.29	有機物混じり砂を混入。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機物である。	5.23	5.29	5.23~5.29m 有機物混じり砂を混入。砂は中~粗粒砂でシルトや炭化物を混入。全体に若干有機物である。	
7	5.13	5.19	5.23	5.29	(色調種)灰褐(10YR5/1)	5.23	5.29	(色調種)灰褐	
8	6.66	8.39	-	-	硬質砂	-	-	6.66~8.39m 硬質砂	
9	6.66	6.82	6.66	6.82	少量の粗粒砂を混入する細粒砂。少量の未分解木片を混入。	6.66	6.82	6.66~6.82m 少量の粗粒砂を含む細粒砂。少量の未分解木片を含む。	
10	6.82	8.08	-	-	細~粗粒砂からなり(7.43m以深ではシルトが混入)。全体にφ2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角礫を主とする。礫種はGp、Ap及び石英からなる。	-	-	6.82~8.08m 細~粗粒砂からなり、7.43m以深ではシルトが混入。全体にφ2~5mmの細礫が混入。細礫は角~歪角礫を主とする。礫種は花崗斑岩、アプライト、石英からなる。	
11	7.10	7.10	7.10	7.10	上部7.10m付近まで石英細礫(φ5~10mm程度)を多く混入する。炭化物も塊状に混入。	7.10	7.10	7.10m付近までφ5~10mm程度の石英の細礫を多く含む。炭化物も塊状に含む。	
12	7.10	-	7.10	8.08	φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を混入。	7.10	8.08	7.10~8.08m φ5~30mmの風化礫及び半風化礫を含む。	
13	7.30	7.30	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の礫物を含む。	7.30	7.30	7.30m付近。未分解の礫物片を含む。	
14	6.82	7.43	6.82	7.65	上部はシルト質。下部は硬質となる。	6.82	7.65	6.82~7.65m 上部はシルト質。下部は硬質となる。	
15	7.70	7.70	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を混入する。	7.70	7.70	7.70m付近。炭化物を含む。	
16	8.08	8.39	8.08	8.39	砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深から若干の有機物を混入。	8.08	8.39	8.08~8.39m 砂は石英、長石主体で細~中粒砂。均質であるが、8.30m以深は若干の有機物を含む。	
17	8.39	8.83	8.39	8.83	砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	8.39~8.83m 砂混じり有機質シルト	
18	8.39	8.83	8.39	8.83	(地質名欄)砂混じり有機質シルト	8.39	8.83	(地質名欄)砂混じり有機質シルト	
19	8.39	8.53	8.39	8.53	φ3cm角礫を混入。粗粒砂が主。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片が混入する。	8.39	8.53	8.39~8.53m φ3cmの花崗斑岩の角礫を含む粗粒砂。8.40~8.45mにかけて縦方向に炭化木片を含む。	
20	8.53	8.83	8.53	8.83	45~50°傾斜で有機物及び炭化木片が混入。所々、粗粒砂をブロック状に含む。	8.53	8.83	8.53~8.83m 傾斜45~50°で有機物及び炭化木片を含む。所々、粗粒砂をブロック状に含む。	
21	8.83	8.83	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層をはさむ。	8.83	8.83	8.83m付近に粗粒砂の薄層を挟む。	
22	8.83	9.54	8.83	9.54	有機物混じり砂	8.83	9.54	8.83~9.54m 有機物混じり砂	
23	8.83	9.64	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂。砂礫	8.83	9.54	(地質名欄)有機物混じり砂	
24	8.83	9.10	8.83	9.10	有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を9%未満混入。少量の炭化物を混入。	8.83	9.10	8.83~9.10m 有機物混じり砂 粗粒砂を主とし、石英細礫を9%未満含む。少量の炭化物を含む。	



コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名: H24-B14-2

コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの差異点)	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 選定した記事内容		
25	-	-	8.90	8.97	8.90	8.97	-
26	9.10	9.26	-	-	9.10	9.26	-
27	9.13	9.15	9.13	9.15	9.13	9.15	-
28	9.26	9.54	9.26	9.54	9.26	9.54	-
29	9.54	11.12	9.54	11.12	9.54	11.12	-
30	9.54	9.71	9.54	9.71	9.54	9.71	-
31	10.70	10.72	10.70	10.72	10.70	10.72	-
32	11.12	12.04	11.12	12.04	11.12	12.04	-
33	11.12	11.66	11.12	11.66	11.12	11.66	-
34	11.40	11.42	11.40	11.42	11.40	11.42	-
35	11.53	11.55	11.53	11.55	11.53	11.55	-
36	11.66	11.79	11.66	11.79	11.66	11.79	-
37	11.66	11.79	11.66	11.79	11.66	11.79	-
38	11.79	12.04	11.79	12.04	11.79	12.04	-
39	12.04	12.69	-	-	12.04	12.69	-
40	12.04	12.69	12.04	12.69	12.04	12.69	-
41	12.13	12.13	12.13	12.13	12.13	12.13	-
42	12.37	12.41	12.37	12.41	12.37	12.41	-
43	12.65	12.67	-	-	12.65	12.67	-
44	19.70	19.73	-	-	12.70	12.73	-
45	12.69	13.09	-	-	12.69	13.09	-
46	12.69	13.09	12.69	13.09	12.69	13.09	-
47	12.76	12.85	12.76	12.85	12.76	12.85	-
48	12.85	13.09	-	-	12.85	13.09	-
49	13.09	13.86	13.09	13.80	13.09	13.80	-
50	13.09	13.86	13.09	13.80	13.09	13.80	-
51	13.30	13.30	-	-	-	-	-
52	13.17	13.60	13.17	13.60	13.17	13.60	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それらの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書まで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
53	13.40	13.40m付近、φ5~7mmの石英礫を約5%混入。	-	-	-	13.40	13.40	13.40m付近、径5~7mmの石英礫を約5%含む。	-
54	13.60	13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~微細砂となる。	13.60	13.80	13.60~13.80m付近、粒径の均一な細~極細砂となる。	-	-	-	・上記で字とめ書きしたため記載しない
55	13.86	16.24 砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫が混入する。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ・硬質=1:	13.80	16.24	砂礫 φ2~40mm(最大330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体。礫含有率50~70%程度。基質はシルトの混じる不均質な砂からなる。半クサリ・硬質=1:	13.80	16.24	13.80~16.24m 砂礫 径2~40mm(最大330mm)の歪角~歪円礫を主とし、所々、φ40~70mmの円~歪円礫を含む。礫種は花崗斑岩が主体で、礫含有率50~70%程度。基質はシルト混じりの不均質な砂からなる。半クサリ礫と硬質礫の割合は同程度である。	
56	13.86	16.24 (地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	13.80	16.24	(地質名欄)砂礫	-
57	15.08	15.17 Ap玉石	15.08	15.17	Gp玉石	15.08	15.17	15.08~15.17m:花崗斑岩の玉石を含む。	-
58	16.42	16.60 風化Gp玉石	-	-	-	16.42	16.60	15.42~15.50m:風化花崗斑岩の玉石を含む。	-
59	15.70	16.00 Gr岩塊	15.70	16.00	Gp岩塊	15.70	16.00	15.70~16.00m:花崗斑岩の岩塊を含む。	-
60	16.24	16.24 砂礫とGpの境界は、密着しており、 $\angle 45^\circ$ 程度を示す。	-	-	-	16.24	16.24	16.24m:砂礫と花崗斑岩の境界は密着しており、傾斜 $45^\circ$ 程度を示す。	-
61	16.24	16.24 花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	16.24	16.24	花崗斑岩着岩 変質著しい、全体に軟質化する。	-	-	-	・下記の強風化・変質部の記載に含まれる内容であるため記載しない
62	16.24	16.24 Gpの礫晶はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。右基は優白色である。	16.24	60.65	花崗斑岩 Gpの礫晶はφ3~8mmの石英、長石を主とし、φ2~5mmの黒雲母が混じる。右基は優白色である。	16.24	60.65	16.24~60.65m:花崗斑岩 礫晶は径3~8mmの石英、長石を主とし、径2~5mmの黒雲母を含む。右基は優白色である。	
63	16.24	16.6R 16.24~16.68、強風化・変質部 全粒に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	16.24	16.6R	16.24~16.68、強風化・変質部 全粒に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	16.24	16.6R	16.24~16.68m:強風化・変質部で、全体に変質が認められ、コアは淡く赤色を帯びた灰白色を呈する。局所的にやや硬い所があるが、全体的に針入可能である。	
64	16.24	16.64 (色調欄)記載なし	16.24	16.64	(色調欄)5YR6/1 補灰	16.24	16.64	(色調欄)補灰	-
65	16.24	16.94 $\angle 30^\circ \sim 30^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。下位に比べて原岩組織を顕している。	16.24	16.94	$\angle 30^\circ \sim 30^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟在する。下位に比べて原岩組織を顕している。	16.24	16.94	16.24~16.94m:傾斜 $30^\circ \sim 30^\circ$ の割れ目跡が1~3cm間隔で発達する。白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。下位に比べて原岩組織を顕する。	
66	16.64	18.04 (色調欄)記載なし	16.64	18.04	(色調欄)5YR6/1 灰白	16.64	18.04	(色調欄)灰白	-
67	16.94	18.03 割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	割れ目不明瞭となる。	16.94	18.04	16.94~18.04m:割れ目が不明瞭となる。	-
68	17.30	17.58 岩石組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	17.30	17.58	原岩組織不明瞭となる。指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	17.30	17.58	17.30~17.58m:原岩組織が不明瞭で、指圧で砂混じりシルト状に崩せる。	-
69	18.04	18.68 割れ目沿いの変質が著しく、新鮮硬質部をφ5~20mmの塊状に残している。軟質部は針入可能である。 $\angle 50^\circ \sim 70^\circ$ 及び $\angle 90^\circ$ 程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~巾1mm挟在する。	18.04	18.68	割れ目沿いの変質が著しく、新鮮硬質部をφ5~20mmの塊状に残している。軟質部は針入可能である。 $\angle 50^\circ \sim 70^\circ$ 及び $\angle 90^\circ$ 程度の割れ目跡が認められ、白色細粒物をフィルム状~幅1mm挟在する。	18.04	18.68	18.04~18.68m:割れ目沿いの変質が著しく、硬質部を径5~20mmの塊状に残す。軟質部は針入可能である。傾斜 $60^\circ \sim 70^\circ$ 及び $90^\circ$ 程度の割れ目跡に白色細粒物をフィルム状~幅1mmで挟む。	
70	18.04	18.68 (割れ目状懸濁)のランク (変質欄)のランク	18.04	18.68	(割れ目状懸濁)のランク (変質欄)のランク	18.04	18.68	(割れ目状懸濁)のランク (変質欄)のランク	-
71	18.33	18.37 変質の影響弱い。上端 $\angle 40^\circ$ 、下端は不明瞭。	18.33	18.37	変質の影響強い。上端 $\angle 40^\circ$ 、下端は不明瞭。	18.33	18.37	18.33~18.37m:強く変質する。上端 $40^\circ$ 、下端は不明瞭である。	-
72	18.68	19.89 変質著しく、割れ目、岩石組織をほとんど残さない。全体に指圧で変形するほど軟質である。	18.68	19.89	変質著しく、割れ目、原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。	18.68	19.89	18.68~19.89m:変質が著しく、割れ目と原岩組織が不明瞭である。全体に指圧で変形するほど軟質である。	
73	19.19	19.50 巾2cm、灰白~淡黄褐色を呈する。シルト砂混じり粘土脈分布。 $\angle 75^\circ$ 程度、凹凸する。	19.19	19.50	幅1~2mmのシルト砂混じり粘土脈が分布し、粘土脈に沿って幅2cm 灰白~淡黄褐色を呈する。 $\angle 75^\circ$ 程度、凹凸する。	19.19	19.50	19.19~19.50m:傾斜 $75^\circ$ で湾曲して、幅1~2mmのシルト・砂混じり粘土が分布し、粘土脈に沿って幅2cmが灰白~淡黄褐色を呈する。	
74	19.00	19.25 変質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.00	19.25	網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.00	19.89	19.00~19.25m、19.55~19.89m:網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。	・記事内容が同じであるため、19.55~19.89mの記事を含めて記載した
75	19.55	19.89 変質粘土は淡黄褐色を呈する。	19.55	19.89	網目状の変質粘土は淡黄褐色を呈する。	-	-	-	-
76	19.89	20.29 2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~巾1mm程度挟在する。岩片は硬質である。	19.89	20.29	2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mm程度挟在する。岩片はやや軟質である。	19.89	20.29	19.89~20.29m:2~10mm程度の間隔で網目状に割れ目が発達し、変質粘土をフィルム状~幅1mmで挟む。岩片はやや軟質である。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)			
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
77	20.00	25.00	(地質名欄)空欄	20.00	25.00	(地質名欄)Op	20.00	25.00	(地質名欄)花崗斑岩	-		
78	20.05	20.29	風化・変質作用により、全体的に軟質化している。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。上層(20.05~20.09m)及び下層(20.24~20.29m)は変質著しく、微湿にシロリト状を呈する。下層は $\angle 64^\circ$ で下位と積される。	-	-	-	20.05~20.29m 風化・変質作用により、全体に軟質化する。岩片状にやや硬質な部分を残すが針貫入可能である。20.05~20.09m間及び20.24~20.29m間は変質が著しく、微湿にシロリト状を呈する。下層は傾斜 $64^\circ$ で下位と積される。	20.05	20.29		-	
79	20.29	20.90	上位と比べて風化・変質の影響弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱。	-	-	-	20.29~20.90m 風化・変質の影響が弱くなるが、微細な割れ目が全体に発達し脆弱である。	20.29	20.90		-	
80	20.48	20.50	巾15mm、 $\angle 24^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.48	20.50	幅15mm、 $\angle 24^\circ$ 、灰白色の変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.48	20.50	幅15mm、 $\angle 24^\circ$ 、灰白色の変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.48	20.50	記事内容が同じであるため、20.72~20.74m、20.83~20.84mの記事を含めて記載した。
81	20.72	20.74	巾12mm、 $\angle 40^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.72	20.74	幅12mm、 $\angle 40^\circ$ 、灰白色変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
82	20.83	20.84	巾9~8、 $\angle 68^\circ$ 、変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	20.83	20.84	幅9~8mm、 $\angle 68^\circ$ 、灰白色変質粘土(砂混じり粘土)挟在。	-	-	-	-	-	上記でまとめ書きしたため記載しない
83	21.00	22.00	(最大コア長欄)0	21.00	22.00	(最大コア長欄)2	21.00	22.00	(最大コア長欄)2	21.00	22.00	
84	21.00	21.20	全体に割れ目が発達し、片状コア。ただし、21.10~21.15mは短棒状コア。	21.00	21.20	全体に割れ目が発達し、細片状コア。ただし、21.10~21.15mは短棒状コア。	21.00	21.20	21.00~21.20m 全体に割れ目が発達し、細片状を呈する。21.10~21.15mは短棒状を呈する。	21.00	21.20	
85	21.69	21.74	幅3mm、 $50^\circ$ の灰白色粘土質砂。	21.69	21.74	幅3mm、 $50^\circ$ の灰白色粘土質砂を挟む。	21.69	21.74	21.69~21.74m 傾斜 $50^\circ$ で幅3mmの灰白色粘土質砂を挟む。	21.69	21.74	
86	21.73	-	21.73mから $\phi 1\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状コアとなる。	21.73	22.00	21.73m~22.00mは $\phi 1\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状コアとなる。	21.73	22.00	21.73m~22.00m 径 $1\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状を呈する。	21.73	22.00	
87	22.39	22.63	網状割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	微細な割れ目発達し、割れ目ぞいに劣化。	22.42	22.63	22.42~22.63m 微細な割れ目が発達し、割れ目ぞいに劣化する。	22.42	22.63	
88	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	(コアの形状欄) Vランク	22.39	22.42	
89	22.39	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 5YR7/2 明褐灰	22.42	22.63	(色調欄) 明褐灰	22.42	22.63	
90	22.63	23.71	割れ目多く、 $\phi 1\sim 3\text{cm}$ の角礫状コア。	-	-	-	22.63	23.71	22.63~23.71m 割れ目が多く、径 $1\sim 3\text{cm}$ の角礫状を呈する。	22.63	23.71	
91	23.71	23.85	長さ $3\sim 9\text{cm}$ の短棒状コア。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	-	-	-	23.71	23.85	23.71~23.85m 長さ $3\sim 9\text{cm}$ の短棒状コアからなる。23.71m付近の割れ目の面に黒色粘土を挟む。	23.71	23.85	
92	23.85	24.48	$\phi 1\sim 5\text{cm}$ の片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに $\phi 0.2\sim 1\text{cm}$ 程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	$\phi 1\sim 5\text{cm}$ の岩片状コアを呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに $\phi 0.2\sim 1\text{cm}$ 程度の細片化が認められる。	23.85	24.48	23.85~24.48m 径 $1\sim 5\text{cm}$ の岩片状を呈する。岩片はやや硬質であるが、割れ目沿いに径 $0.2\sim 1\text{cm}$ 程度の細片化が見られる。	23.85	24.48	
93	24.48	25.88	$\phi 0.5\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状~片状コアを呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、 $\phi 5\text{mm}$ 以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	$\phi 0.5\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状~細片状コアを呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、 $\phi 5\text{mm}$ 以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響少ない。	24.48	25.88	24.48~25.88m 径 $0.5\sim 3\text{cm}$ 程度の礫状~細片状を呈し、割れ目として認識できない。コア採取時に細粒分を流失している。特に、25.30~25.77m間は、 $\phi 5\text{mm}$ 以下のものを流失している。岩片はやや硬質で、風化・変質の影響は少ない。	24.48	25.88	
94	25.00	26.00	(最大コア長欄)0	25.00	26.00	(最大コア長欄)4	25.00	26.00	(最大コア長欄)4	25.00	26.00	
95	25.88	26.62	土砂~礫状を呈するコア。岩片は $\phi 5\sim 15\text{mm}$ 程度のものが多く、25.88~26.12m間は $\phi 5\sim 50\text{mm}$ のものを主体とする。基質部はシルト混じり中粗砂様で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	土砂~礫状を呈するコア。岩片は $\phi 5\sim 15\text{mm}$ 程度のものが多く、25.88~26.12m間は $\phi 5\sim 50\text{mm}$ のものを主体とする。基質部はシルト混じり中粗砂様で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	25.88~26.62m 土砂~礫状を呈する。岩片は径 $5\sim 15\text{mm}$ 程度のものが多く、25.88~26.12m間は径 $5\sim 50\text{mm}$ のものを主体とする。基質部はシルト混じり中粗砂様で、不規則にマンガンに汚染されている。指圧で変形するほど軟質である。	25.88	26.62	
96	26.62	27.62	5~15mm程度で網状に割れ目が発達し、割れ目沿いに岩質劣化し、土砂~片状を呈する。	26.62	27.62	5~15mm程度で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いに岩質劣化し、土砂~細片状を呈する。	26.62	27.62	26.62~27.62m 5~15mm間隔で網目状に割れ目が発達し、割れ目沿いに土砂~細片状を呈する。	26.62	27.62	
97	27.28	27.62	上位と比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、 $1\sim 3\text{cm}$ の岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	上位と比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、 $1\sim 3\text{cm}$ の岩片状コアを主とする。	27.28	27.62	27.28~27.62m 上位と比べて割れ目沿いの岩質劣化は弱く、 $1\sim 3\text{cm}$ の岩片状を呈する。	27.28	27.62	
98	27.47	27.62	$\angle 60\sim 65^\circ$ の割れ目が $1.5\sim 3.5\text{cm}$ 間隔で発達する。	27.47	27.62	$\angle 60\sim 65^\circ$ の割れ目が $1.5\sim 3.5\text{cm}$ 間隔で発達する。	27.47	27.62	27.47~27.62m 傾斜 $60\sim 65^\circ$ の割れ目が $1.5\sim 3.5\text{cm}$ 間隔で発達する。	27.47	27.62	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

No.	コア観察カード		適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事		No.	適正化すべき記事内容		報告書柱状図記事	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度			記事
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
99	27.62	27.62	巾1~2mm 黄灰色砂泥じりシルト、 $\angle 65^\circ$ (真かけ右ズレ断層)→逆断層	27.62	27.62	幅1~2mm、黄灰色砂泥じりシルト、 $\angle 65^\circ$ (真かけ右ズレ断層)→逆断層、シルトは不連続である。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	27.62	27.62	27.62m、傾斜 $65^\circ$ で幅1~2mmの黄灰色砂泥じりシルトを不連続に挟む。シルトの周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。			
100	27.62	27.97	網状に割れ目密集し、コアはやや脆弱となる。	-	-	-	27.62	27.97	27.62~27.97m、網状に割れ目が密集し、コアはやや脆弱となる。			
101	27.92	28.21	$\angle 60\sim 75^\circ$ の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、 $\angle 20\sim 25^\circ$ の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。	-	-	-	27.92	28.21	27.92~28.21m、傾斜 $60\sim 75^\circ$ の密着割れ目が2~10mm間隔で発達するほか、傾斜 $20\sim 25^\circ$ の割れ目が12cm間隔で発達する。後者の割れ目はマンガン汚染を伴う。			
102	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、コアは全体的に劣化している。	28.21	28.50	28.21~28.50m、2~10mm間隔で微細な割れ目が発達し、全体に劣化する。			
103	28.36	28.45	28.36~28.45m間には、 $\angle 30^\circ$ 程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達している。	-	-	-	28.36	28.45	28.36~28.45m、傾斜 $30^\circ$ 程度の微細な割れ目が1~10mm間隔で発達する。			
104	28.45	28.50	岩石組織不明瞭となる。上 $\angle 55^\circ$ 、下 $\angle 50^\circ$ の帯状カタクレサイト?	28.45	28.50	原岩組織不明瞭となる。上端 $\angle 55^\circ$ 、下端 $\angle 50^\circ$ の帯状カタクレサイト?	28.45	28.50	28.45~28.50m、上端 $55^\circ$ 、下端 $50^\circ$ 、原岩組織が不明瞭となる。			
105	28.50	28.66	破砕帯(主せん断面28.50m)	28.50	28.66	破砕帯(最新活動面28.50m)			●28.50~28.66m、破砕帯 28.50~28.51m、微泥じり粘土状土部(Hc-2) 上端 $50^\circ$ 、下端 $50^\circ$ 、径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m、粘土混じり角礫状土部(H) 上端 $50^\circ$ で直線的に連続。径5mm以下の岩片を10%程度含む微泥じり粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm、軟質。 28.53~28.66m、粘土混じり角礫状土部(H) 上端 $40^\circ$ で直線的に連続。径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。にぶい黄褐色を呈する。幅120mm。			-破砕、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織の着層、境界面や粒径級の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
106	28.50	28.51	砂泥じり粘土状破砕帯(Hc-2)	28.50	28.51	砂泥じり粘土状土部(Hc-2) 上端 $50^\circ$ 、下端 $50^\circ$ で直線的に連続。径5mm以下の岩片を10%程度含む微泥じり粘土からなる。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm、軟質。	28.50	28.51	28.50~28.51m、微泥じり粘土状土部(Hc-2) 上端 $50^\circ$ 、下端 $50^\circ$ 、径5mm以下の岩片を10%程度含む。黄灰色を呈する。幅1~1.5mm。 28.51~28.53m、粘土混じり角礫状土部(H) 上端 $50^\circ$ で直線的に、下端 $40^\circ$ で打って連続。径10mm以下の岩片を主体とし、基質も微泥じり粘土を伴う。にぶい黄褐色を呈する。幅23~30mm。			
107	28.50	28.53	砂・細泥混じりシルト状破砕帯(Hb)、巾23~30mm、上端 $\angle 50^\circ$ 、下端 $\angle 40^\circ$ 。 砂・細泥混じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。	28.51	28.53	粘土混じり角礫状土部(H)、幅23~30mm、上端 $\angle 50^\circ$ で直線的に、下端 $\angle 40^\circ$ で打って連続。 砂・細泥混じりシルト(Hb)を主として、上端に巾1~1.5mm黄白粘土(Hc-2)が認められる。 径10mm以下の岩片を主体とし、基質も微泥じり粘土を伴う。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄褐色を呈する。	28.50	28.66	28.53~28.66m、粘土混じり角礫状土部(H) 上端 $40^\circ$ で打って連続。下端は不明瞭。径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。にぶい黄褐色を呈する。	28.50	28.66	
108	28.53	28.66	粘土混じり角礫状土部(H)、巾12cm、上端 $40^\circ$ 、下端は不明瞭。 全体に原岩組織不明瞭で、不規則に粘土細部が分布する。下部は岩盤劣化と接し、境界は不明瞭である。	28.53	28.66	粘土混じり角礫状土部(H)、幅12cm、上端 $40^\circ$ で打って連続。下端は不明瞭。 全体に原岩組織不明瞭で、不規則に粘土細部が分布する。下部は岩盤劣化と接し、境界は不明瞭である。径5~20mmの岩片からなり、細粒部は局所的に分布する。軟質。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にぶい黄褐色を呈する。	28.53	28.66				
109	28.51	28.53	(破砕度区分)Hb	28.51	28.53	(破砕度区分)H	28.51	28.53	(破砕度区分)H			
110	28.66	28.71	土砂状を呈する岩盤劣化部。	-	-	-	28.66	28.71	28.66~28.71m、土砂状を呈する。			
111	28.71	29.45	$\angle 40^\circ$ 及び $\angle 60$ 割れ目が2~6cmで発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	28.71	29.45	$\angle 40^\circ$ 及び $\angle 60$ 割れ目が2~6cm間隔で発達、交錯し、コアは片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。	28.71	29.45	28.71~29.45m、傾斜 $40^\circ$ 及び $60^\circ$ の割れ目が2~6cm間隔で発達、交錯し、岩片状を呈する。割れ目面にはしばしばマンガンを伴う。			
112	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べて硬質となる。	28.83	29.16	28.83~29.16m間は上下位と比べてやや硬質となる。	-	-	-		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない	
113	29.16	29.45	29.16~29.45m間は風化・変質進行し、岩質劣化し脆弱。	-	-	-	29.16	29.45	29.16~29.45m、風化・変質が進み、脆弱である。			
114	29.45	29.91	岩石組織、割れ目不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	29.45	29.91	原岩組織、割れ目不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。	29.45	29.91	29.45~29.91m、原岩組織と割れ目は不明瞭となる。針貫入可能で指圧で容易に崩せる。			
115	29.76	29.81	硬質部を塊状に含む。	-	-	-	29.76	29.81	29.76~29.81m、硬質部を塊状に含む。			
116	29.81	29.87	マンガン汚染帯が広がる。	-	-	-	29.81	29.87	29.81~29.87m、マンガン汚染帯が広がる。			
117	29.91	30.21	片状コア。	29.91	30.21	細片状コア。	-	-	-		記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない	
118	29.91	30.21	$\angle 40\sim 55^\circ$ の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って岩石組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	29.91	30.21	$\angle 40\sim 55^\circ$ の割れ目が0.2~2cm間隔で発達。割れ目に沿って原岩組織が不明瞭となることもある。コアは全体に褐色を帯びる。	29.91	30.21	29.91~30.21m、傾斜 $40\sim 55^\circ$ の割れ目が0.2~2cm間隔で発達し、割れ目沿いに原岩組織が不明瞭になることもある。コアは全体に褐色を帯びる。			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-B14-2)

孔名:H24-B14-2

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を本書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
119	30.13	30.13	巾1mm、 $\angle 30^\circ$ 黄白砂泥じり粘土塊在、上端側に 巾10~15mmの岩質劣化部を伴う。	30.13	30.13	幅1mm、 $\angle 30^\circ$ 黄灰色砂泥じり粘土塊在、上端側 に幅10~15mmの細片状部を伴う。	30.13	30.13	30.13m、傾斜 $30^\circ$ で幅1mmの黄灰色砂泥じり粘土を挟む、上端側に幅10~ 15mmの細片状部を伴う。	
120	30.21	32.40	$\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状 コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚 染は認められるが、岩質は硬質である。	30.21	32.40	$\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目が3~15cm間隔で発達し、柱状 コアを主体とする。割れ目沿いに黄褐色化、酸化汚 染は認められるが、岩質は硬質〜やや硬質である。	30.21	32.40	30.21~32.40m、傾斜 $40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目が3~15cm間隔で発達し、割れ目 沿いに黄褐色化、酸化汚染が認められる。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
121	30.21	31.27	(岩級区分欄)CL	30.21	31.27	(岩級区分欄)CM	30.21	31.27	(岩級区分欄)CM	-
122	30.28	30.44	長さ19cmの柱状コア。	-	-	-	30.28	30.44	30.28~30.44m、長さ19cmの柱状コアである。	-
123	30.44	30.62	(割れ目状態欄)Cランク	30.44	30.62	(割れ目状態欄)Bランク	30.44	30.62	(割れ目状態欄)Bランク	-
124	30.62	30.72	$\angle 40^\circ$ 程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下 位と比べてやや岩質劣化する。	-	-	-	30.62	30.72	30.62~30.72m、傾斜 $40^\circ$ 程度の割れ目が3~10cm間隔で発達し、上下位 と比べてやや岩質劣化する。	-
125	30.76	32.40	(割れ目状態欄)Cランク	30.76	32.40	(割れ目状態欄)Bランク	30.76	32.40	(割れ目状態欄)Bランク	-
126	31.55	31.93	$\angle 40^\circ$ と $\angle 65^\circ$ 以上の密着割れ目が3~5cm間隔で 交錯し、コアは片~短柱状を呈する。	31.55	31.93	$\angle 40^\circ$ と $\angle 65^\circ$ 以上の密着割れ目が3~5cm間隔で 交錯し、コアは片~短柱状を呈する。	31.55	31.93	31.55~31.93m、傾斜 $40^\circ$ と $65^\circ$ 以上の密着割れ目が3~5cm間隔で交錯 する。コアは片~短柱状を呈する。	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
127	31.55	31.93	(コアの形状欄)IVランク	31.55	31.93	(コアの形状欄)IVランク	31.55	31.93	(コアの形状欄)IVランク	-
128	32.15	35.14	(岩級区分欄)CL	32.15	35.14	(岩級区分欄)CM	32.15	35.14	(岩級区分欄)CM	-
129	32.40	32.67	$\angle 50^\circ \sim 60^\circ$ の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿 いに岩質劣化が進行する。一部は岩質組織不明瞭と なる。	32.40	32.67	$\angle 50^\circ \sim 60^\circ$ の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿 いに岩質劣化が進行する。一部は原岩組織不明瞭と なる。	32.40	32.67	32.40~32.67m、傾斜 $50^\circ \sim 60^\circ$ の割れ目が1cm間隔で発達し、割れ目沿 いに岩質劣化が進む。一部は原岩組織が不明瞭となる。	-
130	32.49	32.91	(割れ目状態欄)Cランク	32.49	32.91	(割れ目状態欄)Bランク	32.49	32.91	(割れ目状態欄)Bランク	-
131	32.67	32.67	32.67m付近、 $\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目および不規則な割 れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。 割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片は硬 質である。	32.67	32.67	32.67m付近、 $\angle 40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目および不規則な割 れ目が1~3cm間隔で発達し、コアは片状を呈する。 割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片は硬 質である。	32.67	32.67	32.67m付近、傾斜 $40^\circ \sim 50^\circ$ の割れ目及び不規則な割れ目が1~3cm間隔 で発達し、岩片状を呈する。割れ目沿いに岩質劣化が認められるが、岩片 は硬質である。	-
132	32.67	32.91	上下位に比べて割れ目間隔が広く、コアは片~短柱 状を呈する。	32.67	32.91	上下位に比べて割れ目間隔が広く、コアは片~短柱 状を呈する。	-	-	-	記事欄以外から読み取れるコアの形状の情報は記載しない
133	32.91	33.01	不規則網状に割れ目が発達する。	32.91	33.01	不規則網状に割れ目が発達する。	32.91	33.01	32.91~33.01m、不規則で網目状に割れ目が発達する。	-
134	33.01	33.10	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)Aランク	33.01	33.10	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Bランク	33.01	33.10	(コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)Bランク	-
135	33.01	35.14	硬質片状~短柱状コアを主体とする。 $\angle 50^\circ \sim 60^\circ$ の 割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、 $\angle 75^\circ$ 以上 の高角度割れ目も30~100cm間隔で発達する。一部割 れ目沿いに岩質劣化し、組織状を呈するところもあ る。	33.01	35.14	硬質で短柱状コアを主体とする。 $\angle 50^\circ \sim 60^\circ$ の割 れ目が3~6cm間隔で発達するほか、 $\angle 75^\circ$ 以上の高 角度割れ目も見られる。一部割れ目沿いに岩質劣化 し、組織状を呈するところもある。	33.01	35.14	33.01~35.14m、傾斜 $50^\circ \sim 60^\circ$ の割れ目が3~6cm間隔で発達するほか、傾 斜 $75^\circ$ 以上の高角度割れ目も見られる。一部割れ目沿いに組織状を呈す る。	記事欄以外から読み取れる硬さやコアの形状の情報は記載しない
136	33.10	34.46	(割れ目状態欄)Cランク	33.10	34.46	(割れ目状態欄)Bランク	33.10	34.46	(割れ目状態欄)Bランク	-
137	33.72	33.72	$\angle 60^\circ$ の割れ目に黄白シルト質砂が付着する。コア 採取時に大半を流失し、詳細は不明。	33.72	33.72	$\angle 60^\circ$ の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コ ア採取時に大半を流失し、詳細は不明。	33.72	33.72	33.72m、傾斜 $60^\circ$ の割れ目に黄灰色シルト質砂が付着する。コア採取時 に大半を流失し、詳細は不明である。	-
138	34.20	34.46	割れ目間隔密となり、コアは1~5cmの片状を呈す る。割れ目沿には酸化汚染とともにマンガンの付着 が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。	34.20	34.46	割れ目間隔が狭くなり、コアは1~5cmの細片状を 呈する。割れ目沿には酸化汚染とともにマンガンの 付着が認められる。カリ長石は黄褐~白濁する。	34.20	34.46	34.20~34.46m、割れ目間隔が狭くなり、1~5cmの細片状を呈する。割れ 目沿には酸化汚染とともにマンガンの付着が認められる。カリ長石は黄褐 ~白濁する。	-
139	34.32	34.46	(風化欄)Bランク	34.32	34.46	(風化欄)Aランク	34.32	34.46	(風化欄)Aランク	-
140	34.46	34.73	(コアの形状欄)IIIランク	34.46	34.73	(コアの形状欄)IVランク	34.46	34.73	(コアの形状欄)IVランク	-
141	34.77	34.77	巾5~12mm、 $\angle 60^\circ$ 程度、黄褐~灰白粘土塊じり 砂。(みかけ逆断層)。	34.77	34.77	幅5~12mm、 $\angle 60^\circ$ 程度、黄褐~灰白色粘土塊じり 砂。(みかけ逆断層)。砂は上層側の割れ目に入 入っている。砂を挟む割れ目の周辺層には原岩組織が 認められ、系統的な割れ目も存在しない。	34.77	34.77	34.77m、傾斜 $60^\circ$ で幅5~12mmの黄褐~灰白色粘土塊じり砂を挟む。砂は 上層側の割れ目に入っている。砂を挟む割れ目の周辺層には原岩組織が 認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-